

第七十回

瀬戸市文芸発表会

特選作品

第七十回記念賞受賞作品

【松代 天鬼 先生選】

《一般の部》

特選 会いにゆく聡太の風に瀬戸銀座

瀬戸市五位塚町

稲垣 康江

特選 窯垣の屋号を偲ぶ瀬戸名所

瀬戸市宝ヶ丘町

三好 光明

特選 心まで取りたくは無しディスプレイ

岐阜県郡上市

海神 瑠珂

第七十回記念賞 ややこしい操作は御免アナログ派

愛知県尾張旭市

浅見 和彦

《小中学生の部》

特選 友だちのやさしいところ発見だ

名古屋市立中小田井小学校三年

加藤 成真

特選 鳥が舞う大空というステージで

品野中学校二年

堀部 咲乃

特選 夏の夜輝く星と見つめ合う

南山中学校二年

水野 咲輝

第七十回記念賞 ニュース見て化石さがしに弟と

名古屋市立中小田井小学校六年

戸倉 董子

【なかはら れいこ 先生選】

《一般の部》

特選 つぶやきを包む最中の薄い皮

瀬戸市五位塚町

青砥 和子

特選 滝からはバイリンガルになる清水

京都府京都市

福村 まこと

特選 ちよつとだけ緑をたすと山動く

瀬戸市共栄通

水谷 克行

第七十回記念賞 東京のメシ屋で出会う瀬戸の皿

愛知県清須市

澄 海

《小中学生の部》

特選

死を見て死を考えておはよう私

品野中学校三年

伊藤 乙亜

特選

ひこうせんらんちゅうみたい飼えないか

名古屋市立中小田井小学校二年

堀田 青葉

特選

ぼくははなきみにあいさつこんにちは

品野中学校一年

和田 來姫

第七十回記念賞

六年生 はなれ行く場所 近づく春

效範小学校六年

水野 陽亮

詩

【若山 紀子 先生選】

《一般の部》

特選

M鉄バス停

名古屋市名東区

加藤 美穂

夕ぐれ 私はM鉄バスにすーっと乗る

彼は私を見送って別のM鉄バスに乗る

次の約束はない

「黙ってバスに乗って行かないで」と彼

「又、いつか」と私

「又、今度」と言えない女の子だった

次の約束をしてM鉄バスに乗るようになった
いつしか「又、今度」と言える女性になった
そして二年

「又、いつか」の人になった

今 何回目かの「又、いつか」の私

遠いあの日のM鉄バス停

あのM鉄バス停は今もある

特選

四十九日

北海道札幌市

笹森 美帆

父の四十九日の朝、六時半に目が覚めた。

「お父さん、この辺にさまよっていられるのも今日までだね。

明日からはどこか遠いところへ行ってしまうんでしょ？

ねえ、ちよっと降りておいでよ」

と言いおいて、金曜日のプラスチックごみを捨てに行った。

部屋に戻ったとき、まだ父の気配はなかったのだけれど、

もう一度ベッドにもぐりこんだ。

「そうだよね、ちよっと眠りかけてるくらいの時がいいんだよね」
小一時間、うつらうつらしたのだけれど、

ついに父は現れなかった。

もう、かなり遠いところまで行ってしまったのかもしれない。

昼過ぎ、札幌からのバスをはつきむ発寒橋で降りて、

父がいたころいっしょに花見をしたはつきむ発寒河畔公園を通って、

ふもと橋までゆっくり歩いた。

今日は小雨が降っていて、

まもなく紅葉するであろう木々が、緑豊かに濡れそぼる。

ふもと橋を渡って、家に帰る途中、

『なると』に入った。

ここに何度、父とラーメンを食べに来たことだろう。

最後に来たのは七月六日

父が味噌、聡さんが醤油、私が塩。

あつあつのスープに、父は水コップの氷を入れて冷ましていたっけ
その、わずか一カ月後に死んでしまうなんて。

「いらっしやいませえ」

いつものように、元気な『なると』のお姉さん。

ひとりで暖簾をくぐった私に、

ちよつとだけ不思議そうな視線を向けた。

でも、何も言わなかった。

「塩ラーメンひとつ」

あつあつのラーメン

口の中でとろけるチャーシュー

しゃきしゃきの葱ねぎ、鮮やかな緑のほうれん草

しこしこの黄色いラーメン

どんぶりのなかに、大粒の涙が落ちた

「お父さん、美味しいねえ」

こっくりとした白いスープが喉元を過ぎ、胃に落ちる。

ラーメン屋で良かった

カウンターのついたての衝立で、誰も私の顔なんか見てはいないから

ティッシュは目の前、

いくら鼻をかんでも、涙をふいても

誰もオカシイなんて思わない場所

ラーメン屋のカウンターってなんていいんだろう。

「ひとりでラーメン食べるって、悲しいもんだねえ」

胸がきゅううっと

搾り取られるように痛い

早食いの私の横で

父はまだ、はふはふやりながら、麺をすすっている

「お父さん、今朝、会いに降りてきてくれなかったから、

なるとに来たんだよ、ラーメンなら一緒に食べたいだろうと思って。

お父さん、なるとのラーメン好きだったもんねえ」

父の黒い革の小銭入れのなかに、

きっちり角をそろえて折りたたまれた千円札。

「いいんだって、今日は私のおごりなんだから」

胸の、このあたり

きうっと締め付けられるような

ここのところ

そこ、に

父はいるの

その痛みが、命の墓

生きているっていうのは、そういうこと。

「お父さん、なるとのラーメン、旨かった？」

第七十回記念賞

人

千葉県市川市

山本 明

笑っても

話しても

みんな黙っている

夕げの白のする街角を歩いても

演説場に立っても

みんな黙っている

生命をもち

心をもつ人は

みんな孤独だと言う

《小中学生の部》

特選

贈り物

筑波大学附属中学校一年

福島 にご

さつき
皐月の初めの日

懐かしい親友からの贈り物が届きました

昔好きだったおもちゃ

二人で撮った写真

家に忘れて怒られた交換日記

よく一緒に食べたおやつ

二人の思い出がよみがえる

皐月さつきの二日

おばあちゃんから贈り物が届きました

大好きだった駄菓子

私が小さい頃に書いたという絵

鉛筆で書いてある手紙

二人の思い出がよみがえる

箱を開けた瞬間

玉手箱のようにふわっと思い出の煙が私を包む

あの時あの瞬間は分からなかったけれど

今ならわかる

私を包んだ思い出の煙を

今度は私が抱きしめてあげた

その煙が私の心の中へすーっと入っていく

そしていつの間にか

私の心はあたたかくなっていった

このあたたかいぬくもりを

私は誰にあげようか

特選

音

品野中学校二年

堀部 咲乃

木が笑う

風にくすぐらわれて

クスクス クスクス

人が生きる

胸の内側の音楽隊

ドクドク ドクドク

歯車がまわる

時というなの歯車

カチコチ カチコチ

地球が奏でる

生命という音楽を

第七十回記念賞

新しい出会い

效範小学校六年 大浦 楓禾

帰ってきたら、うれしいプレゼント

その時、心の中で家族の糸が繋がった

新しい犬だ、名前はモコ

名前がぜんぜん決まらなかったので

もこもこだから、モコになった

とても元気な男の子

もこもこすぎると顔がなまけものだ

散歩も遊ぶのも大好きだ

音が鳴るおもちゃでよく遊ぶので

どんどんこわしていく、とても困る

ずっと家に入れておくと、すね顔になる

それを家族みんなで、すねおと言っている

ずっとやんちゃなモコが好き

俳句

【田口 風子 先生選】

《一般の部》

特選 万緑や巫女並びゆく神楽殿

特選 聖堂の固き木椅子や梅雨寒し

特選 氷菓食む太平洋へ足垂し

第七十回記念賞 推敲もいつしか虫を聴いてをり

愛知県知多郡東浦町

愛知県春日井市

瀬戸市品野町

瀬戸市萩山台

伊藤 京子

奥山 ひろみ

掛樋 嗣征

溝口 洋子

《小中学生の部》

特選

夕暮れの小さき影のカラスの子

岡崎市立竜南中学校三年

有川 咲季

特選

鉛筆を削る白いや夏の雲

岡崎市立竜南中学校三年

石川 愛華

特選

栗の花左に傾ぐ埴輪かしかな

名古屋市立守山中学校二年

水野 結雅

第七十回記念賞

古時計三分長い大晦日

岡崎市立竜南中学校三年

大島 一慶

俳句

【佐藤 美恵子 先生選】

《一般の部》

特選

被災地につなぐ聖火や青嵐

東京都渋谷区

梶田 祥子

特選

新樹光八分音符で踊りけり

佐賀県唐津市

古賀 由美子

特選

轆轤ろくろひ挽く背戸せと鶯の声しきり

愛知県尾張旭市

豊田 紀久子

第七十回記念賞

「猿投さなげよう窯」蔵す山巖初明り

瀬戸市東本地町

稲垣 松鯉

《小中学生の部》

特選

「さようなら」廊下に出ると夏の風

品野中学校三年

川本 あゆみ

特選

雪降って元気に走る子供達

岡崎市立竜南中学校三年

坂田 力斗

特選

教室の窓から見える初桜

岡崎市立竜南中学校三年

久永 晃綺

第七十回記念賞

靴ひもを結び飛び出す春の朝

岡崎市立竜南中学校三年

赤谷 大祐

俳句

【加藤 かな文 先生選】

《一般の部》

特選 子を抱きて転居挨拶秋日和

特選 あの世にもコンビニあるか夏の雨

特選 かたときもはなれぬ蛇のずんぐりと

第七十回記念賞 初夏の肉弾けたるウインナー

《小中学生の部》

特選 鉛筆を削る白いや夏の雲

特選 文化祭クラスの絆その歌に

特選 紫陽花とインク掠れたボールペン

第七十回記念賞 シャボン玉ふわふわ浮かぶ俺の夢

俳句

【横田 欣子 先生選】

《一般の部》

特選 あんこう かお 鮫鯨の貌して競りを見てをりぬ

特選 落し文誘なふ古代猿投窯 さなげよう

瀬戸市原山台 太田 友子

埼玉県上尾市 鈴木 良二

千葉県千葉市 千葉 信子

名古屋市守山区 水野 大雅

岡崎市立竜南中学校三年 石川 愛華

品野中学校三年 古長 ほのか

岡崎市立竜南中学校三年 志治 和

岡崎市立竜南中学校三年 杉浦 健仁郎

瀬戸市品野町 掛樋 嗣征

瀬戸市東本地町 小島 鍵治

特選
ビアホール今宵限りの上司部下
東京都世田谷区 野上 卓

第七十回記念賞
湯豆腐の湯気いっぱいに一人膳
瀬戸市原山町 岩間 豊喜

《小中学生の部》

特選
鉛筆を削る白いや夏の雲
岡崎市立竜南中学校三年 石川 愛華

特選
夏の海たかい山から広がった
效範小学校三年 鈴木 希空

特選
栗の花左に傾ぐ埴輪かな
名古屋市立守山中学校二年 水野 結雅

第七十回記念賞
青い空一年ぶりの氷食ふ
品野中学校一年 加藤 保乃佳

短歌

【大塚 寅彦 先生選】

《一般の部》

特選
近頃はただ生きていて一日が無事に終わればビール一缶
佐賀県唐津市 古賀 由美子

特選
岬まで白詰草の道来り赤毛のアンになりきって夏
瀬戸市五位塚町 阪本 弘子

特選
魚族のごとき尖がりマスクしてヒト遊びある梅雨のコンビニ
滋賀県大津市 船岡 房公

第七十回記念賞
いつからか明治の欄が無くなって静かにめぐる命とうもの
東京都杉並区 佐藤 優羽

《小中学生の部》
特選
水無月の重い地に咲く蒲公英に薄くなりゆく春を感じる
東京都立南多摩 石川 瑞貴
中等教育学校一年

特選

さようなら最後の散歩涙目で空へと登るひいおばあちゃん

東京女子学院
中学校一年

小林 香里奈

特選

寝ぶくろの中まで星がふってくる

光市立光井
小学校五年

横道 玄

第七十回記念賞

五連休コロナのせいで動けない

長根小学校六年

森本 悠

はげますようにコイたちおよぐ

短歌

【近田 順子 先生選】

《一般の部》

特選

いつからか明治の欄が無くなって静かにめぐる命とうもの

東京都杉並区

佐藤 優羽

特選

玉ねぎの皮をむくがに服脱げば真ん中にあるひとりぼっちは

山口県光市

瀬戸内 光

特選

街明かりひとつひとつを「ほし」と呼ぶ君と歩けば広がる銀河

東京都杉並区

平久保 好一

第七十回記念賞

《小中学生の部》

特選

コロナ・災・格差・借金・拉致・いじめ・長寿と数多^{あまた}背負ふ令和よ

奈良県宇陀市

翔のんまな

さようなら最後の散歩涙目で空へと登るひいおばあちゃん

東京女子学院
中学校一年

小林 香里奈

特選

縁側の蚊取り線香思い出す亡き父親のたばこの煙

東京女子学院
中学校一年

フォー
スター
えみり

特選

寝ぶくろの中まで星がふってくる

テントの外でねころんでいたら

光市立光井
小学校五年

横道
玄

第七十回記念賞

ゴクゴクと飲む音だけがひびくんだ休み時間の教室の中

東京女子学院
中学校一年

廣谷
柚